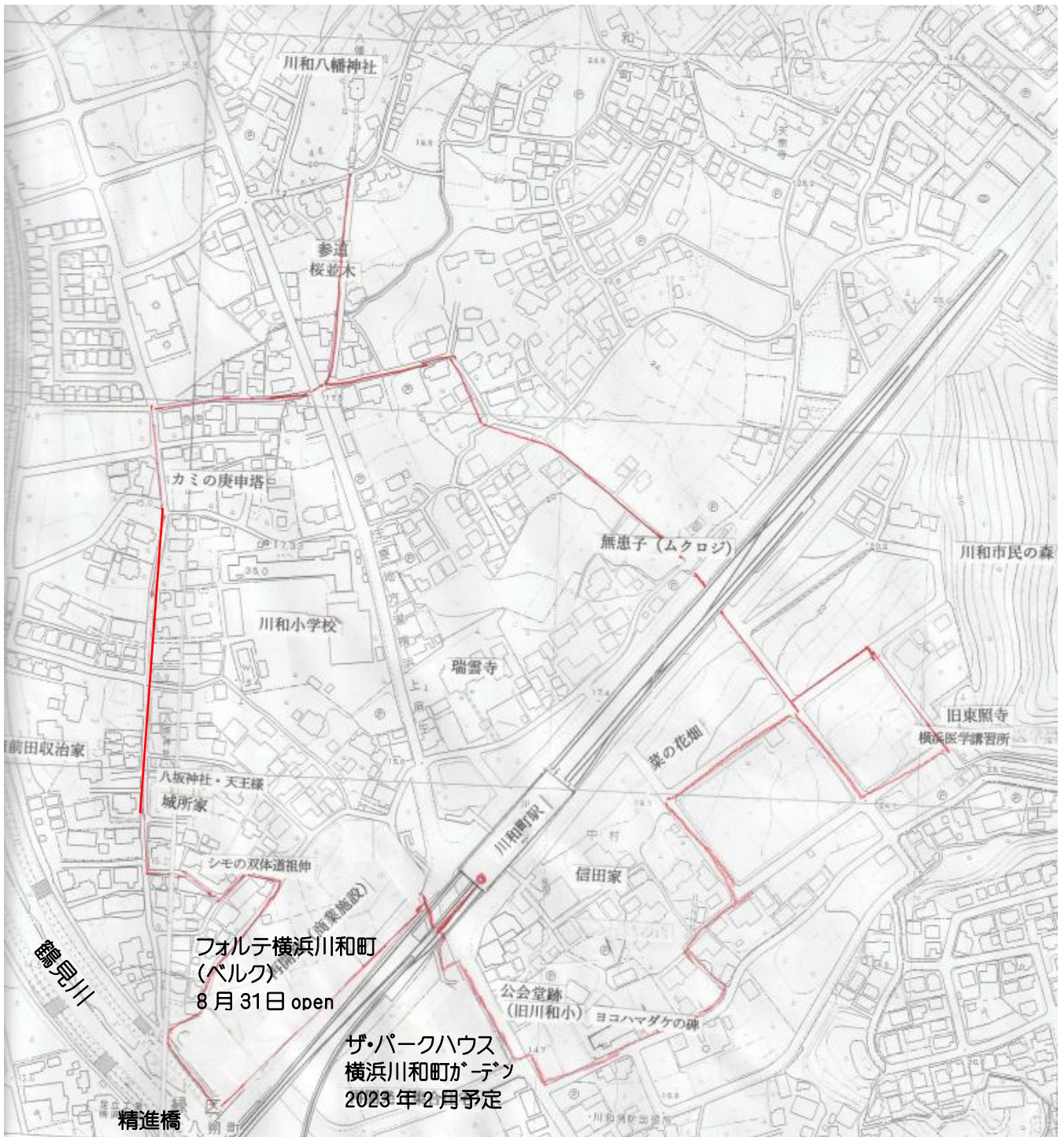


日時：2022年9月21日(水) 9:30 集合 グリーンライン 川和町駅
中川駅 9:15 発—9:17 センター北 9:23 発—9:29 川和町駅

ルート:川和町駅・歩道橋から商業施設(フォルテ横浜川和町・ベルク)と建設中の集合住宅を見る、その後川和公会堂の跡地—ヨコハマダケの碑(Arundinaria:アランダ イリア)—信田家—川和医学講習所(旧東照寺跡)—川和市民の森—無患子—川和八幡神社—庚申塔—川和の宿—旧前田家八坂神社・天王様—城所家—建設中の施設(鶴見川の方角から)—川和町駅 (約3km)



○川和町駅 (G02 平成 20 年(2008)3 月 30 日開業)

歩道橋の上から、北側に新設の商業施設(フォルテ横浜川和町・ベルク)、南側に建設中の集合住宅が見えます。ちょっと前まで、「菜の花畑と桜」とのどかだった川和町駅周辺が大きく変わってきています。



・川和町駅周辺西地区土地区画整理事業 約 7.3ha (市街化調整区域から市街化区域)

北側:「ベルク」を中心とした商業施設「フォルテ横浜川和町店」が 2022 年 8 月 31 日 open

南側: H 街区「ザ・パークハウス 横浜川和町ガーデン」10 階建 183 戸 2022 年 12 月竣工予定

E 街区計画 H 街区計画と同じ三菱地所の分譲マンション 164 戸 2023 年 12 月予定

F 街区計画 シニア向け分譲マンション 149 戸 2024 年 6 月予定



フォルテ横浜川和町
(ベルク)8 月 31 日 open



ザ・パークハウス横浜川和町ガーデン
2023 年 2 月予定

ベルク:駅直結で駐車 2 時間無料、9:00~24:00 営業と便利そうです。(暫くは、混雑しそうです)
ベルク:埼玉を中心に関東で 120 店舗と急成長のスーパー 関東では 10 位(2020 年)

参考(食品スーパーは地元密着型でしのぎを削っている、神奈川本社のスーパー)

ビッグ・ライズ(あおば)神奈川 30、東京 6 店 本社:横浜市青葉区荏田北 1 丁目 5-1

オーケー株式会社 首都圏で 128 店 本社:横浜市西区みなとみらい 6 丁目

ロピア 首都圏で 57 店+関西 10 店 本社:川崎市幸区南幸町 2 丁

いなげや 首都圏で 132 店 本社:立川市栄町六丁目 1 番地

川和町について

川和町の「川和」は、河輪とか河曲で、水の流れが屈曲している意味。明治12年に行政区画としての都筑郡が発足して、都筑郡役所が下川井村(現在の旭区)から川和村に移転してから、川和郵便局、川和警察署分署(当時は都田警察署)、川和登記所などの行政関係の建物、商店や旅館などが軒を連ねて、都筑郡の中心地として栄えました。

しかし、明治41年 横浜線が中山町を通り、行政施設も移っていき、川和町は寂れてきました。

(鶴見川と恩田川と 2 つの鉄橋を架けるのを避ける為だったとか)

昭和 10 年頃の川和の町



ヨコハマダケを発見した松野重太郎

横浜市には、約 4,000 種の植物が自生していますが、数少ない「横浜」の名がついた植物の一つが「ヨコハマダケ」です。このヨコハマダケは、明治末に川和村出身の松野重太郎により、横浜市西区戸部町池の坂で発見されました。松野重太郎は、川岸などに自生するメダケと違うことを発見し、東京帝国大学の牧野富太郎にみてもらい、新しい植物と判明。ヨコハマダケは川和町駅近くの旧松野家の庭に移植され、横浜植物会が建てたヨコハマダケの英語と日本語の学名を刻んだ記念碑があります。松野重太郎は「神奈川県植物目録」を出版するなど、植物界に多くの業績を残しました。学名:Arundinaria(アルディナリア)は、P^o の名前にもなっています。



松野重太郎



よこはまだけの碑



牧野富太郎

・川和医学講習所(旧東照寺跡)

川和村の名主をつとめた信田家には、日記などたくさんの文書が残されている。文久4(1864)年の記録には、医師1名とある。前田家は、少なくとも江戸の終わりには、医者をしていた。明治11年頃に、川和の東照寺内に医学講習所が作られた。前田藤作先生はじめ、都筑郡内の足立、刈谷、横山、中山先生ら10数名が発起人になり、週に1回ほど集まって医学の研究に励んだようだ。医学講習所跡、瑞雲寺の墓地になっている。背後の緑は、川和市民の森。



川和医学講習所(旧東照寺跡)

無患子(むくろじ)

無患子の黒色の種は、お正月の羽子板の羽子につかわれます。この無患子を世の中に紹介したのが、郷土の教育者、植物学者、俳人の松野重太郎です。神奈川県史蹟名勝天然記念物調査員であった松野重太郎は、樹高16m、根周り4.8m、地上1.5の周囲4.8m、樹齢300年と報告しています。この他に川和八幡神社の大杉についても報告しています。



川和の八幡神社

古くは河輪神社といい、川和の氏神となっています。貞観17年(875)以前の創建と想定されます。明治26年(1893)年に八幡神社、大正9年(1920)に村社に指定されています。境内には移転前の川和富士にあった「浅間大神」の碑、川和公会堂前にあった庚申塔などがあります。昭和初期に伐採されるまでは、当時関東一といわれた杉の大木がありました。樹齢が1,000年以上で、高さが28間(約58m)、周囲が2丈4尺(約7m)もありました。



八幡神社



境内の石碑



今はなき杉の大木

川和の市

川和町駅の西に、川和の「宿」と呼ばれる集落があります。ここでは「川和の市」が開かれ、近郷近在の人々の間で親しまれてきました。集落の中を八王子街道が通り、民家の広い前庭を市の場所として使われました。

この市に行かなければ、正月の準備ができないとまでいわれ、宿の家々は、前日の24日に、馴染みの商人を迎える準備をしました。店を構える場合は、前庭や母屋でした。岸上興一郎の「川和の市」によれば、市商人は25日の早朝に、宿に入るのが習わしでしたが、なかには24日に入り、泊まった商人もいたようです。



道の両側の庭に店を開いた 城所家



城所家の総本山とされる屋号「オモチ」では、布団を40組も準備したと伝えられています。店は午前10時頃から真夜中まで開かれました。このように賑わった川和の市は、昭和30年代から衰退に向かい、かつて100店を超えたものが、最終の昭和42年(1967)には2~3店になりました。衰退した主な理由は、横浜線の中山が急激に発展し、市商人が徐々に中山に移り、中山で市を開いたことがあげられています。

八坂神社・天王様

川和宿の中央に鎮守である八坂神社・天王様があります。幕末の頃、官軍の江戸攻めによる戦乱から難を逃れるため、大神輿を引き取り、ご神体として祀っています。境内には二十三夜塔と力比べをした「天王様の石」と呼ばれる24貫(90kg)の力石があり。真夏におこなわれるお祭りは、花籠を先頭に山車が出て賑やかです。

(二十三夜塔：月待塔(つきまちとう):特定の月齢の夜に集まる講中の一つ。十五、十六、十九、二十二、二十三など)



八坂神社・天王様



祭りの山車



二十三夜塔

川和の赤ひげ先生

赤ひげ先生と呼ばれ神様のように慕われた前田収治という医者がありました。江戸時代末の生まれで、都筑郡の大半を馬に乗って往診していました。金持ちからは薬代をもらい、貧しい人からは「金はいらないよ、よくなってよかったなあ」、また農作物で薬代にかえたり、人間味あふれる人でした。お酒が好きで、晩酌をすると、誤診してはいけないからと断ったそうです。5代続いた医者家で、8千㎡の広い庭には、けやきの大木が茂り、通りから玄関まで石畳が敷かれていました。いまは駐車場と住宅地になっています。



前田収治医師



家屋敷

